

ひなばと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 46

2025年11月10日

子どもシェルター全国ネットワーク会議 inHYOGO 参加報告

兵庫県尼崎市で行われた、子どもシェルター全国ネットワーク会議に参加してきました！

毎年、全国各地の子どもシェルター関係者が集まり、議論する場です。

もともと、子どもシェルターは、親など、子どもに敵対する大人が乗り込んできて子どもを連れ戻そうとしていたことへの対策から、場所を秘匿としてきました。子どもシェルターが全国各地に存在するようになり、自立援助ホームを兼ねたシェルターや、根拠法が異なるシェルターも登場するようになりました。全体での意見交換を通じて、子どもシェルターとは何か、我々の目指すところは何だろうと、改めて問い直す時期が来ていると感じました。

分科会では、私は困難事例を検討する第3分科会に参加しました。

第3分科会では、実際にあったケースをもとに、希死念慮のある少女を受け入れた際のシェルタ

一側の苦労がよくわかる報告と、意見交換がなされました。希死念慮がある子どものケースでは、医療との連携が必要不可欠となります。また、スタッフさんにも相当の負荷がかかります。スタッフさんやシェルター自体も守らなければなりません。「こうすればよい」という明確な答えがない中で、一生懸命子どもに向き合うことの難しさをみんなで考えました。

今年も、本当に刺激的な集まりでした。

子どもシェルター事業は、きっと振り返りの時期に来ているのだと思います。前途は多難ですが、それでも、毎年、子どもの権利擁護のために一生懸命活動している人たちと顔を合わせて意見交換をすることに、大変意義があると思っています。

来年も参加したいです（来年は、佐賀です）。

理事 寺西 環江

会員の皆様へのご挨拶

蓮見 和幸

2010年9月にNPO法人ピピオ子どもセンターの設立総会が開催され「ピピオ」が産声をあげました。あれから15年。皆様のご支援ご協力、そして温かいお言葉のおかげで、設立の頃に生まれた子ども達が実際に入居してくるような年齢になってきています。

翌年春にはシェルターが開設されましたので、設立当初に「ピピオの家」に入ってきた子ども達も、もう30歳を超えているということになります。ピピオ設立の頃の私もちょうど30歳を少し超えたところでした。振り返ってみると、当時はまだそこまで遠くなく記憶も鮮明な自分の10代の頃

の感情を思い出しながら担当した子ども達に接していたように思います。もちろん、それは今も同じつもりなのですが、どうしても自身の10代の記憶は薄くなり、その分これまで接してきた子ども達の言動や表情を思い浮かべることが多くなってきたような気がします。

どちらがいいというわけではないと思いますが、年齢と経験を重ねていく分、長い人生や未来を俯瞰した目線で話をするだけでなく、今もがいている子供たちの感情や考え方を受け止めるということも、より意識していきたいと感じるようになりました。

15年前の記憶も正直少しずつ薄れてきてはいますが、それでも、設立総会の会場が多くの会員の

皆様の熱気に溢れていたこと、皆様のシェルターへの期待感をひしひしと感じとても身が引き締まる思いをしたことを私は今でもはっきり覚えています。

「ピピオ」もまだまだ15歳のひな鳩です。これからの「ピピオ」も変わっていくこともあれば、変わらないこともあると思いますが、誕生時のこの熱い記憶だけはいつまでも、どんな時も忘れずに活動していきたいと思っています。皆様、今後も変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

理事 蓮見 和章

2025 年度通常総会のご報告

2025年度の通常総会を、2025年6月21日午後2時から広島総合法律会計事務所で行いました。令和6年度事業報告、令和6年度決算報告の2つの決議事項、令和7年度事業計画、令和7年度活動予算、そして役員改選の3つの審議事項が諮られ、いずれも承認可決されました。

私たちは、居場所がなく困難を抱えた子どもたちのセーフティネットの一翼を担うべく、そのような子どもたちが安全で安心できる居場所を提供しその自立を支援していく活動を開始して15年目を迎えました。本年度も、子どもシェルター「ピピオの家」、自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営を中心に活動していくと共に、「ピピオの家」「はばたけ荘」を旅立っていった子どもらに対するアフターフォローについても他機関との連携も含め当法人でできることを検討していくこと、また居場所がなく困難を抱えた子どもらを支援するセーフティネットが充分でない実情を踏まえ当法人でできる事業がないかを検討していくことといった新たな事業についても検討していくことを確認しました。

総会では、決議事項や審議事項の決議をした後、今後の当法人の活動における課題や展望について、意見交換を行いました。その中で、女子のための自立援助ホームの開設について、その必要性があると考えられ、かつ子どもシェルター「ピピオの家」の入居者の出先として継続的な支援ができることから、その開設に向けて動いていくべきではないかとの意見が出され、そのための設立準備委員会を立ち上げて、具体的な人材や物件の確保、運営規定の制定などを検討していくことが確認されました。また、困難を抱えた子どもらやその子どもらを支援する大人たちに私たちの活動を周知していくことを強化するべきであるとの意見などが出されました。

本年度も居場所がなく困難を抱えた子どもらのセーフティネットの一翼を担っていけるよう、皆様と力を合わせてより充実した活動をしていきたいと考えております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

理事長 鵜野 一郎

■2024 年度 「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者の概要

	ピピオの家（女子）	はばたけ荘（男子）
2024 年度中の入居者数	12 名	6 名
うち2023年度からの継続	3 名	4 名
うち2024年度中の新規入居	9 名	2 名
入居時の年齢	14 歳 2 名 15 歳 3 名 18 歳 3 名 19 歳 1 名	16 歳 1 名 17 歳 1 名
2024 年度中の退居者数	12 名	4 名
入居期間	半月以内 5 名 半月～1 か月 1 名 1 か月～2 か月 3 名 2 か月～3 か月 3 名	約 6 か月 1 名 約 10 か月 1 名 約 2 年 8 か月 1 名 約 5 年 2 か月 1 名
退居後の行き先	親のもとへ 2 名 アパートで一人暮らし 1 名 自立援助ホーム 7 名 児童養護施設 1 名 その他の施設 1 名	親のもとへ 1 名 アパートで一人暮らし 2 名 その他の施設 1 名

ボランティアスタッフ養成講座を開催しました

今年度の第15回ボランティアスタッフ養成講座は、6月18日から7月23日までの間に全6講を開催しました。

新しくボランティア活動への応募をされた皆さんのほか、現ボランティアの方、ピピオの家・はばたけ荘のスタッフも参加し、発達障害・愛着障害、子どもとの接し方、性被害経験がある子どもとの関わり方などについて学びました。

皆さん大変熱心に受講され、6名の方が新しいボランティアスタッフとして加わってくださいました。

ボランティアスタッフの皆さま、今後ともピピオへのご協力をよろしくお願いいたします。

事務局

スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのOです。

9月27日(土)に、「子どもシェルター全国ネットワーク会議inHYOGO」に参加させていただきました。

私が参加した分科会のテーマは、〈職場環境の心理的安全性〉でした。スタッフ(シェルター職員)他、弁護士さんや事務局の方も参加しておられました。

始めに、今回主催の兵庫県の「NPO法人つながり」の理事で尼崎市の総合病院小児科医の方から、職場でのストレス要因や、心理的安全性のある職場環境にしていくための工夫についての講演がありました。問題が起こった時の問いかけの言葉次第で、前向きな気持ちになり、メンバーが安心して思いを伝え、チームとしての力が発揮できる

ことが実感できました。

次に、事前に実施されていた各シェルタースタッフ(72人分)へのアンケート結果についての解説があり、自由記述欄のスタッフの生の声(ポジティブ、ネガティブ両方)も紹介されました。アンケート回答への安心のため、個人は特定されません。厳しい課題の指摘もありつつ、「シェルターでの仕事を続けたい」「やりがいを感じる」という回答の割合が多くなっていることに、励まされました。

グループに分かれての意見交換で、私の入ったグループは、スタッフ3人、事務局1人、理事1人の5人でした。私以外の2人のスタッフさんは、在職1年位で、前職は全く違う職種だったそうですが、分からないこと、難しいことは、遠慮せず

相談しながらやっていける関係性があると言われていました。

大きなお家にお住まいのスタッフの家で、スタッフお泊り会をしたという、まるで昭和!のような話がありました。(プライベートな時間を使つての集まりに抵抗がないか、しっかり根回ししてから開催されたそうです。)

スタッフ、非常勤職員、ボランティアさんが参加する(zoom含む)ミーティングが毎月あり、子どもの生活場面で関わる大人たちの共通認識を深めているとの紹介もありました。

「ピピオの家」では、施設長(ホーム長)という立場の人はいないので、スタッフ3人が対等に意見を出し合い、スタッフの意見としてメールや会議で上げるようにしていることを話しました。

事務局の方は、頻繁にシェルタースタッフと話をする機会があり、シェルター内の生活の様子を身近に感じていると言われていました。

理事の方は、10月に開催される中国・四国のシェルターの交流会のことを紹介され、他の地域の方から「そういうのが近場であるのはいいですね。」という声が上がっていました。

分科会全体を通して出てきた参加者の共通の思いは、職場の心理的安全性は、日頃からお互いに安心して思いを言伝え合える風通しのいい関係性があるところから生まれる。そのためには、仕事とは別の何でもない会話、たわいなしなおしゃべりをする機会があること、お互いにささいなことでも感謝の言葉を口に出すことが大事、ということでした。

そして、子どもに関わる様々な大人たちの間に、風通しのいい、あたたかい関係性があれば、子どもはそれを敏感に感じ取り、最終的には子どもの大きな安心感につながっていくということを、実感を伴って確認できました。

全国会議に参加して、全国各地のシェルターで奮闘しておられる仲間たちのことを身近に感じ、難しい現実はあるながらも、安心感や前向きな気持ちを感じて帰ることができました。

これからも様々な役割、立場の方々と協力しながら、たくさんの“ありがとう”を声に出し、(適度な!?)楽しいおしゃべりをして、安心であたたかい「ピピオの家」の一員でありたいと思います。

ピピオ掲示板

寄付等のご協力 ありがとうございます

平田様、奥様、神原様、梶山様、小武家様、井上様、高井様、山口様、寺西様、倉田様、片桐様、瀬戸様、久保様、高橋様、向田様、石田様などから寄付金等をいただいております。日々子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。この場を借りて御礼申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0012 広島市中区上八丁堀7番10号 HSビル404号室

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>